

今年も8月31日から9月1日にかけて盛大に飯高祭が開催された。元日に起きた地震の影響も創意工夫によって最小限にとどめ、生徒の皆さんや保護者、地域の方々の笑顔を見ることができたのは大きな喜びである。今年のテーマは「超戦～to be continued～」であり、地震の影響で暗い気持ちになっているこの状況をさらなる高みを目指した飯高祭によってハッピーで埋め尽くしたい、そして新たに心の炎を燃やして頑張ろう、このままでは終われない、という思いが込められている。3Bの上野君と3Cの前田君の発案である。

さて、私の高校2年次は飯高祭も修学旅行もなく、運動会1日と文化部発表会が半日あった。理由を担任に問うと「昨今の生徒は何も勉強しなくなったので、1978年に飯高祭は文化部発表会と運動会に、修学旅行は研修旅行に縮小した」とのことであった。しかし、なんと、飯高祭は私が3年生の時（1982年）に復活した。当時の生徒会長のO君（私のクラスメイト）が毎晩遅くまで生徒会担当の先生と根気強く折衝を続け、中断4年で復活させたのであった。大金星である。その復活劇に私は微々たる助力もできていないが、文化祭ではバルーン班に所属し、太陽熱のみで上昇するバルーンを作って上げた記憶がある。バルーン内温度と外気温の温度差が5℃あると空気の比重差がこれだけできて、ポリエチレンのゴミ袋を張り継ぎしたバルーンの自重を上げるためにはどれだけの大きさがないといけないとかいうのを計算し、内外温度差が5℃で一辺が4m程の大きさだったら上がるということで作った。結果は、上昇していったのだが風が少しあり、数m上がっただけで、破れてしまった。風があることやバルーンの強度を全く考慮しなかった結末である（風があると、途中で回収することもできず、破けてしまう）。昨年から教員生活3度目の飯高勤務になったが、飯高祭を皆さんが笑顔で楽しんでいるのを見ると、O君の偉業が素晴らしく思えてくる。私には彼ほどの寄与が飯高にできているか、自問し、省みる次第である。

この飯高祭に今年は格闘家の鈴木千裕さんが参加され、見事な技やトークを披露された上に恋愛相談にも乗って下さり、飯高祭に華を添えられた。彼のトークの中で印象的だったのが、「偽善者」についての件（くだり）であった。世の中には、善行する人のことをSNS等で「偽善者」と誹謗中傷する人が多くいるのだと改めて思った。しかし、彼はそれを気にする風もなく、好きに言わせておけば良いと泰然としている。人は本当のこと（良くないこと）を指摘されると怒るものだが、そうではない彼の姿が「偽善」ではない証拠であると確信した。飯高生の皆さんには、彼に肉体的に及ばないにしても、彼のごとき精神力が醸成されることを期待している。

飯高祭と言えば、合唱コンクールも名物の一つである。昨年、とある中学校の校長先生から、以前は歌わない男子にやきもきした女子が中学校へ愚痴をよく言いに来ていたが、近年は楽しく合唱していることを報告してくれると、仰っていた。それだけ今はどのクラスも一丸となって合唱に打ち込んでいるのである。また、審査員の先生方は審査の途中で目が潤んでおられた。特に、3年生の出来は4クラスとも素晴らしく、審査に多くの時間を要するほど甲乙丙丁付け難かった。そして、3年生の偉大な背中を1、2年生に見せることができ、この伝統が来年以降も続いていくと確信しておられた。本当に、皆の頑張る姿は美しく、それが聴衆者に感動をもたらしたのである。「頑張る姿＝美しい＝感動」の方程式はパリオリンピックでも実証済みである。今夏のインターハイで男子ウエイトリフティング部が活躍したことも記憶に新しく、これもまた地域の方々に感動と元気を与えてくれた。今後も八面六臂の活躍を期待し、飯高生にエールを送る！